

海陸軍刑律

全

70

393.21



有文  
松  
庫  
設

特70  
483

3932

朕惟ヲニ兵民途ヲ分チ寛猛

治ヲ異ニス其律ヲ定メ法ヲ

設クルニ於テ豈斟酌商量以

テ其宜ヲ制セザル可ニヤ頃

海陸軍律撰輯竣ヲ告ク朕之



ヲ閱スルニ損益要ヲ得輕重  
 度ニ合セリ依テ頒布シ有司  
 ヲシテ遵守シ軍人ヲシテ懲  
 誡スル所アラシム

明治四年辛未八月廿八日

將校	自裁	奪官	回籍				
閏刑	流刑	閉門半年後 奪官	閉門半年後 回籍	閉門半年後 還職			
下士	死刑	徒三年	徒一年	放逐 杖五十			
閏刑	流刑			放逐 錮三十 五百後			
卒夫	死刑	徒三年	徒一年	杖五十 錮 還職			
閏刑	流刑						



ヲ 閱 ス ル ニ 損 益 要 ヲ 得 輕 重  
 度 ニ 合 セ リ 依 テ 頒 布 シ 有 司  
 ヲ シ テ 遵 守 シ 軍 人 ヲ シ テ 懲  
 誡 ス ル 所 ア ラ シ ム

明治四年辛未八月廿八日

將校	自裁	奪官	回籍				
閏刑	流刑	閉門半年後 奪官	閉門半年後 回籍	閉門半年後 還職			
下士	死刑	徒三年	徒一年	放逐 杖五十			
閏刑	流刑			放逐 錮三十 五百後			
卒夫	死刑	徒三年	徒二年	徒一年	放逐 杖五十	杖五十 錮 言	
閏刑	流刑						

五 卅  
 一 卅







ニ海陸軍武學生、海陸軍醫官、會計書記ノ吏、百工役夫、常員アル者ニシテ、其大小官員ハ、拜命ノ日ヨリ、新兵水夫ハ、隊伍ニ編入シ、讀法畢ルノ時ヨリ、法ヲ犯ス者ハ、此律ニ依テ斷スヘシ。

第三條

凡ソ軍屬ト稱スルハ、海陸軍各衙門、城堡、武器火藥糧食等ノ倉庫、造船場、材木草秣等諸廠ニ於テ、監守支給使役運輸等ノ用ニ供スル者ニシテ、或ハ定例ノ課役コシカヒ

ニ充テ、或ハ一時ノ傭役ニ出ルモ、其犯罪、海陸軍事ニ涉ル者ハ、亦此律ニ依テ、斷スヘシ。

第四條

凡ソ大小官員、カリカハリニエツヤク委官署職等ニ依テ、臨時海陸軍事ニ関與シ、軍事ニ於テ、罪ヲ犯ス者モ、此律ニ依テ論スヘシ。

第五條

凡ソ戰時、及ヒ興軍ノ際ニ在テハ、若クハ老幼、若クハ婦女、Amishon雜工、客作家、丁等營中艦内ニ在ル者、皆此律ニ依



テ論スヘシ。

第六條

凡ソ敵ノ間諜或ハ我カ平民タリ<sub>ト</sub>兵卒水夫等ヲ<sub>ス</sub>盡  
誘<sub>カシ</sub>シ。賭博淫姦蕩遊等ニ<sub>ヲ</sub>媒<sub>ナカダチ</sub>介スルヲ業トスル者モ各  
此律ニ依テ論ス。但シ其平民平時ニ在テハ<sub>シハイ</sub>其所轄ニ  
付シテ之ヲ禁罰セシム。

第七條

其軍人期滿ル後若クハ他故ニ因テ職ヲ退キ或ハ罷

ラレ。後ヲ免シ。或ハ除カレタル者舊時ノ長上ニ對シ。  
不法ヲ犯ス<sub>ト</sub>。爾後三箇年ノ間ニ在レハ。尚此律ヲ以  
テ論スヘシ。

第八條

前ノ諸條ニ確定シタル外ハ。平民國法ヲ犯ス者ニ於  
テ。此刑律。絶テ當ル<sub>ト</sub>ナシ。

第九條

其致仕ノ將校退職料ヲ受ル者。及ヒ榮典ニ依テ徒ニ



武班ノ官職名號ヲ稱スル者ハ、各此律ニ當ラス。

第十條

凡ソ兵部並ニ其所轄衙門ノ官吏奏請法ニ違ヒ、文案

ヲ誤署シ、文書ヲ誤寫シ、布告ヲ替緩シ、月日數目ヲ差

シ、公座事ヲ署セサル等ノ罪、并ニ同僚公罪ヲ犯シ、遞

減スルノ法等ハ、國ニ成典アリ、亦此律ノ論スル所ニ在ラス。

第十一條

此刑律、亦海陸軍懲罰ニ當ラス。懲罰ハ營中艦内ニ在

テ、其司令官ニ委任セラレ、將校ノ謹慎、或ハ營舎ニ於

テシ、或ハ私宅ニ於テス、及ヒ兵卒水夫ノ禁錮、營倉艦

倉ニ於テス、皆三週日ニ過キス、其他ノ事項ハ、懲罰ノ

成典ニ備ハレリ。

第十二條

此刑律、海陸軍ニ通スト雖モ、効糾判決等ノ事ハ、各本

部ニ管スルヲ以テ、陸軍軍艦ニ乗ル時ハ、艦内ニ在ル



カキリ、海軍ノ所轄ニ係リ、海軍陸ニ在テ、陸軍ト事ヲ同スルカキリハ、陸軍ノ所轄ニ係ルヘシ。

第十三條

凡、海陸軍人軍属ハ、其犯罪、本邦疆内ニ於テシタルト、外國ニ於テシタルト、別ナシ。

第十四條

其海陸軍人軍属、租稅地田、其他本管府縣事ニツキ、罪ヲ犯シ、并ニ後備軍郷里ニ在リ、國法ヲ犯ス者ハ、皆此

律ニ當ラス。

第十五條

其海陸軍人軍属平民ト共ニ國法ヲ犯ス者ハ、該事ニ係ル所轄ニ付ス、但兇暴劫掠盜賊毆鬪博奕淫蕩等ノ諸犯、此刑律内并ニ海陸軍懲罰内別ニ正條アル者ニ於テハ、其軍人軍属猶此律ヲ以テ論ス、其共犯海陸軍事ニ係ル者ニ於ケル、平時ニ在テハ平民ヲ其本管ニ付シ、戰時ハ直ニ此律ニ依テ論スヘシ。



第十六條

凡軍人拜官編伍ノ後、舊罪發覺シテ、後來武員ニ班スフ可カラサル時ハ、先其官ヲ削テ、本属ノ府縣ニ付ス、

第十七條

其輕罪猶収用ニ可ナル者ハ、本属府縣該スル所ノ律ゴウシキニ處スヘシ、

第十八條

凡軍属舊罪發覺スル者ハ、輕重ヲ問ス、本属ニ付ス、

第十九條

凡軍人軍属軍法ヲ犯シ、因テ従前國法ノ罪發覺スル者ハ國法ノ罪重キハ、第十六條、并ニ第十八條ノ律ニ准シ、軍法ノ罪重キハ、此律ニ依テ論ス、

第二十條

其軍法ノ罪前後俱ニ發スル者ハ、其重キニ從テ論ス、職モ亦此ノ如シ、

第二十一條



凡軍法ニ於テ。上下ノ分ヲ嚴ニシ。下タル者。一體ニ服從スルヲ要スルヲ以テ。長上ノ令ニ違フ者ハ。一級ノ差モ。重キニ從テ論ス。

第二十二條

凡軍法ニ於テ。嚴ニ酹<sub>イハレ</sub>酹<sub>イハレ</sub>ヲ禁スルヲ以テ。故意爰ニ及<sub>ヲイニ</sub>フ者ハ。絶テ其罪ヲ減スル<sub>ヲイニ</sub>ナク。偶然爰ニ至ル者モ。重キニ從テ論ス。

第二十三條

凡此律内。將校ト稱スルハ。少尉以上。海陸軍武學生モ同シ。下士ト稱スルハ。伍長水夫長以上。卒夫ト稱スルハ。兵卒水夫。長官ト稱スルハ。管轄<sub>ミナイラスモ</sub>ヲナス者。司令官ト稱スルハ。諸隊<sub>イハレバンオカシラ</sub>ヲ統轄スル者。上官ト稱スルハ。海軍ハ。海軍一體ニ係リ。陸軍ハ。陸軍一體ニ係リテ。各等級ノ上ナル者ヲ云フ。

第二十四條

凡此律内。戰時ト稱スルハ。外國ト開釁ノ際ニ在テ。全



國敵ト相持子ラミアラスルヲ云フ。若敵國内ノ一部ニ在ル時ハ、  
唯征討ノ軍艦兵隊敵ニ當ル者及ヒ鄰近ノ諸部ヨウジン戒嚴  
ノ守備ヲナス者戰時ノ律ニ當ル。他部相関セサル者  
ハ猶平時ノ律ニ依テ論ス。

第二十五條

其敵國内ノ一部ニ在テ他部相関セサルノ地方ニ在  
テハ其犯罪平時ノ律ニ依ルト雖モ若事應援串謀ニ  
涉リ審覈シテ證左アレハ戰時ノ律ニ准ス。  
タスケマヒイキミ

第二十六條

凡一年ト稱スルハ三百六十日ヲ以テシ。一月ト稱ス  
ルハ三十日。一日ト稱スルハ二十四字。一週ト稱スル  
ハ一七日。一時行程ト稱スルハ一里十八町。其距離ヲ  
計ルハ野營屯戍旅營等ノ處ニ在テハ本營ヨリ子カ碇泊  
ノ處ニ在テハ本艦ヨリ算ス。

第二十七條

凡同罪ト稱スルハ坐スル本犯ニ同シ。唯本犯死ニ至



ル者ハ、一等ヲ減ス。准スト稱スルハ、本律ニ照シテ、輕重スル所アリ。單ニ軍人ト稱シ、處スルニ卒夫ノ刑ヲ以スル者、將校下士ニ在テハ、クシムテ比擬シテ常ニ重キニ從ス。

第二十八條

凡、二人共ニ、同罪ヲ犯スハ、其罪相同シトス。三人以上ハ、徒黨ト稱ス。黨ハ事ノ大小ヲ問ス。首從ヲ分テ論シ。首謀ハ死ニ處ス。從ハ一等ヲ減ス。脅從ハ懲罰ニ屬シホトケシ

テ論ス。但本條別ニ罪名アルハ、此限ニ在ラス。シテノ名キヤニ

第二十九條

凡、首從ヲ論シ、ホツキ造意隨從分明ナラサル者ハ、其軍人タルト、軍屬タルトヲ察シ、各等級ノ上ナル者ヲ首トス。若シ等級相同シキ者ハ、席次ノ上ナル者ヲ首トス。若シ軍人軍屬、同等同席相混スル時ハ、軍人ヲ首トス。

第三十條

凡、死刑ニ該ル者ハ、律ニ依リ上請シ。又勅奏官員ノ犯



罪ハ事由フトガヲ奏シ。上裁ヲ取ルヘシ。

第三十一條

凡律内ニ。正條ナキ者ハ。律ヲ引キ。并ニ新律綱領ニ依テ。比附加減シテ罪名ヲ定擬シ。奏聞シテ。上裁ヲ取ルヘシ。  
シラヘバモ

第三十二條

此律頒行ノ日ヨリ。舊律ノ諸條。相牴牾キチカクスル者。悉ク革除スル所ニ係ル。

第三十三條

凡戰時ニ當リ。軍艦ヲ發シ。師衆ヲ興ス時ハ。混亂ヲ防キ。嚴ニ職守ヲ奉セシメ。并ニ戰權局外等ノ權義ヲ辨知セシムル為メニ。尚至要ノ條令ヲ下シ。元帥提督ヲ戒飾スヘキヲ以テ。此律ヲ照シ。參互擬断スヘシ。

第二篇 刑法

第三十四條

凡將校軍法ヲ犯ス者。其刑六

第一 自裁



第二 奪官

第三 回籍

第四 退職

第五 降官

第六 閉門

第三十五條

將校ノ死刑ハ、官ヲ免スルノ後、キツク自裁ヲ命ス。爵位ヲ貶スルヲナク。世襲ノ俸ヲ損スルヲナシ。其奪官ノ後、卒

夫ノ刑ニ處スルハ、此例ニ在ラス。

第三十六條

奪官ハ、士ノ義ヲ知ラサルヲ譴テ、其官ヲ奪フ。其終身、國家文武大小ノ員ニ、補スルヲ禁ス。

第三十七條

回籍ハ、其任ニ堪ヘサルヲ譴テ、其官ヲ免ス。唯其終身、武官大小ノ員ニ、補スルヲ禁ス。

第三十八條



退職ハ、唯其官ヲ免ス。再ヒ收用ヲ得ルヲ妨ケス。

第三十九條

降官ハ、官ヲ降ス一等。又一官内二等アル者ハ、等ヲ降ス一級。其罪ノ輕重ニ從ス。

第四十條

閉門ハ、罪ノ輕重ニ從テ、十四週、七週、五週ノ別アリ。私宅ニ於テスルハ、新律綱領ノ例ノ如シ。營内ニ於テスルハ、監倉ヨリ出ルヲ許サス。亦親友ノ訪問ヲ許サス。  
ミマヒ

但疾病ハ此限ニ非ラス。

第四十一條

凡、下士、軍法ヲ犯ス者、其刑六、

第一 死刑

第二 徒刑

第三 放逐

第四 黜等

第五 降等



第六 禁錮

第四十二條

凡下士以下死刑ニ處スル者ハ銃丸打殺ヲ用ユ、兵隊  
整列ノ前ニ於テ巾ヲ以テ罪人ノ目ヲ掩ヒ、跪キテ隊  
ニ面セシメ、練熟セル銃手數人ヲシテ其眉間ヲ打タ  
シメ、以テ其命ヲ断ツ。

第四十三條

徒刑ハ罪ノ輕重ニ從テ三年二年一年ノ別アリ、兵隊

整列ノ前ニ於テ罪狀ヲ讀畢リテ鐵杻ヲ施シ、獄ニ送  
リテ之ヲ錮シ、以テ役ニ供ス。

第四十四條

其役獄内ニ於テシ、或ハ城堡建築ノ傭ニ供ス、桎梏鐵  
鎖其宜キニ便リシ、畢レハ即チ獄ニ錮ス。

第四十五條

放逐ハ兵隊整列ノ前ニ於テ罪狀ヲ讀ミ官ヲ視フノ  
後杖スル五十是ヲ營門ノ外ニ放逐シ、兼テ文移ヲ以



テ其本属ノ府縣ニ事由ヲ告ク

第四十六條

凡、笞杖ノ刑ヲ行フ時、糾問正權少令史ノ内一人ニ委シテ、之ヲ監セシム。笞杖ノ大小ハ新律綱領ニ依ル。唯每杖同部ニ下ルト、露膚單衣ヲ直打スルトヲ禁ス。  
ヒトツトコロ スハダグ ヒトハ

第四十七條

黜等ハ兵隊整列ノ前ニ於テ、罪状ヲ讀ミ、下士ノ號章ヲ視ヒ、黜ケテ卒夫トナス。能ク過ヲ悔ヒ、及ヒ勤勞ア

レハ、仍復任ノ望ヲ絶タス。

第四十八條

凡、黜等ノ罰ヲ受ル者ハ、新入等輩ノ後ニ列シ、營内灑掃諸役ヲ執ラシムルヲ常トス、而シテ復任ハ、必ス其 新入等輩ノ後ニ列シ、營内灑掃諸役ヲ執ラシムルヲ常トス、而シテ復任ハ、必ス其司令官ノ上請ニ由ル。但一時ニ、兩級ヲ復スルヲ許サス。其初メテ、任ニ復スル者ハ、亦兵隊整列ノ前ニ於テ、其隊ノ長官之ヲ命ス。

第四十九條



降等ハ、唯一等ヲ降ス。罪ノ輕重ニ從テ、一年半、一年半ノ別アリ。諸規前條ニ同シ。唯滿限ノ後、舊任ニ復スルヲ得。

第五十條

禁錮ハ、罪ノ輕重ニ從テ、六週、五週、四週ノ別アリ。營内假牢若クハ、艦倉ニ錮ス。其六週ナル者ハ、親友ノ通問ヲ許サス。其他、水糧互給、隔日水糧、枷杻、鐵鎖等ハ、判司ノ撰ニ委シテ、其罰ヲ輕重セシム。

第五十一條

凡、兵卒水夫軍法ヲ犯ス者、其刑六。

第一 死刑

第二 徒刑

第三 放逐

第四 杖刑

第五 笞刑

第六 禁錮



第五十二條

死、徒、放逐、禁錮ハ、下士ノ刑ト。其方法諸規一モ異ナル  
トナシ

第五十三條

杖刑ハ、罪ノ輕重ニ從テ、五十、四十、三十ノ別アリ。五十  
ナル者ハ、錮六週、四十ナル者ハ、錮五週、三十ナル者ハ、  
錮四週、必ス之ヲ兼ヌ。水糧互給等ハ、禁錮ノ法ノ如ク。  
判司ノ撰ニ委ス。且錮ヲ出ルノ後、一年間ハ、ホウゲイ等輩ノ後

ニ就テ、賤役ニ服スルヲ要ス。

第五十四條

笞刑、亦罪ノ輕重ニ從テ、三十、二十、十五ノ別アリ。三十  
ナル者ハ、錮四週、二十ナル者ハ、錮三週、十五ナル者ハ  
錮二週、必ス之ヲ兼ヌ。其他一ツニ杖刑ノ如ク、唯錮ヲ出  
ルノ後、直チニ原列ニ復スルヲ得。

第五十五條

凡、各自ノ正刑ニ處シ、或ハ其情實、仍、愍ムヘク、或ハ仍



懲シムヘキ者ハ、閔刑ヲ設ケ、参酌シテ、以テ至當ニ歸ス。

第五十六條

凡、軍人軍属、死刑ニ處シテ、其情仍慙ムヘキ者ハ、死一等ヲ減シテ、流刑ニ處ス。

第五十七條

凡、將校ノ犯罪、奪官ニ處シテ、重キ一等ヲ加フル者ハ、閉門半年ノ後、此刑ニ處ス。

第五十八條

凡、將校ノ犯罪、奪官ニ該リ、一等ヲ減スル者、閉門半年ノ後、回籍ニ處ス。

第五十九條

凡、將校ノ回籍、一等ヲ減スル者ハ、閉門半年ノ後、退職ニ處ス。

第六十條

凡、將校ノ犯罪、退職ニ處シテ、重キヲ加フル者ハ、閉門



六週ノ後退職ニ處ス。

第六十一條

凡下士ノ犯罪徒一年ニ該リ。一等ヲ減スル者ハ、錮五週ノ後放逐ニ處ス。

第六十二條

凡下士ノ黜等ニ該リ。一等ヲ減スル者ハ、錮五週ノ後降等一年半ニ處ス。

第六十三條

第三十四條ヨリ前條ニ著シタル正刑閏刑ノ外ハ、海陸軍ノ罪犯ニ當ルトナシ。又贖刑ハ、軍法ノ取ラサル所ナルヲ以テ若シ國法ニ比シテ是ニ當ルト雖モ禁錮ヲ以テ之ニ代フヘシ。

第六十四條

凡、刑屍ハ、陸ニ在テハ埋藏シ。艦内ニ在テハ、死屍ノ常例ニ准ス。又親友ノ乞フ者アレハ、之ニ付スルヲ許ス。但葬儀ヲ行フヲ許サス。夜間密カニ之ヲ瘞ムヘシ。



第六十五條

凡、罪状ヲ審覈シ、刑名ヲ處決スルノ法、時限ヲ斟酌シ、地處ヲ量定シ、等差ヲ辨定シ、方法ヲ詳密ニシ、輕キニ失スルコトナク、重キニ過ルコトナク、必ス允當ヲ得テ止ム。其笞杖禁錮給養ノ法、生存ノ理ニ違フコト莫ラシム。

第三篇 謀叛律

第六十六條

凡、榮ヲ貪リ、賊ヲ規シ、難ヲ遁ヒ、安ヲ謀ルノ意アリテ

國ニ背キ、敵人ノ意ヲ希フ者、名ケテ謀叛ト云フ。此ニ一證アルハ、首從ヲ論セス、皆死ニ處ス。將校之ヲ犯ス者、奪官ノ後、銃丸打殺ニ處ス。

第六十七條

凡、罪犯、情實知ル可ラスト雖モ、形迹證左、此ニ涉ル者アレハ、謀叛ノ律ニ依テ論ス。

第六十八條

凡、海陸將校或ハ港口ニ在リ、或ハ曠野ニ在リ、或ハ城



堡ニ保シ。或ハ砲臺ヲ守リテ。敵圍ヲ受ケ。若クハ追逐ニ遭ヒ。危迫窮ルト雖モ。軍議ニ依テ。決ヲ取ル。トナク擅マ。ニ敵ニ降ル者。或ハ會議スト雖モ。議ニ違フテ。敵ニ降り。若クハ率ユル所ノ船艦兵隊。未夕破傷敗亡ヲ受ケサルニ。之ヲ棄テ奔逃スル者ハ。各謀叛ヲ以テ論ス。

第六十九條

前條ノ危急ニ當リ。軍議ニ會シテ。持論異ナル者ハ。之

ヲ申告シ。長官聴カスシテ。降ニ至ル時ハ。該官書ヲ遺シテ。證左トナスヲ法トス。若シ證左ナキ者ハ。同罪トス。

第七十條

凡、軍機ヲ漏泄シ。軍情ヲ發露スル者。又記號暗號ノ類ヲ開示シ。機密ノ圖書ヲ傳播スル者。又應援ノ路線。水攻ノ關門ヲ公言シ。火藥ヲ蝕シ。火門ニ釘スル等ノ舉ニ及フ者。其敗ヲ取リ。事ヲ誤ル。之ニ基カスト雖モ。各



謀叛ヲ以テ論ス。

第七十一條

凡、敵國ノ為メニ人ヲ募リ、或ハ兵器ヲ製造買賣スル者、或ハ自ラ首謀タラスト雖モ、是ニ関與スル者ハ皆謀叛ヲ以テ論ス。

第七十二條

凡、將校一方ノ任ヲ受ル者、或ハ艦ヲ率ヒ、某ノ港ニ在リ、或ハ軍ヲ率<sup>ヒトテタシメテ</sup>非、府邑城堡陣營ニ在リ、若シ戦フヘク

シテ、戦ハス、故ナクシテ、或ハ守地ヲ失ヒ、或ハ船艦隊伍器械糧餉等ヲ亡没スルハ、謀叛ト同ク論ス。

第七十三條

凡、敵ノ近傍ニ在リ、叫呼人ヲ驚シ、騷擾衆ヲ亂ル者、及ヒ軍中ニ在テ、<sup>シキウノフウイン</sup>俚說巷言ヲ談シテ、兵氣ヲ沮喪シ、謾ニ軍畧ノ可否ヲ論シテ、士心ヲ解體セシムル者、各謀叛ニ准シテ、論ス。

第七十四條



凡長官ノ號令ナクシテ、旌旗ヲ動搖シ、擅マ、ニ船艦  
隊伍ヲ遷シ、戦具馬匹ヲ轉シ、謾リニ號令ヲ下シ、銃砲  
ヲ發スル者ハ、各謀叛ニ准シテ論ス。

第七十五條

凡上官ノ准許ニ依ラス、敵人ト音信ヲ通スル者、或ハ  
書牘ヲ以テシ、或ハ音問ヲ以テスルモ、謀叛ニ准シテ  
論ス。

第七十六條

凡進軍追擊、敵地探馬、海口測量等ノ命ヲ受ケ、畏避進  
マズ、或ハ事ニ托シ、別路ヲ取り、或ハ偽説ヲナシ、報告  
實ナラサル者ハ、各謀叛ニ准シテ論ス。

第七十七條

凡城堡海灣等、要阨ノ圖ヲ製シ、地圖記誌ヲ著ハスハ、  
各主司スル者アリ、若シ戦時ニ在テ、謾リニ之ヲ製ス  
ル者ハ、謀叛ノ律ニ准ス。

第七十八條



凡、敵ノ間諜シノヒ發覺スレハ、死ニ處ス。又我人民敵ノ用ニ供シ、事間細ニ連累カリアラスル者ハ、平民軍人ノ別ナク、首從ヲ論セス、皆謀叛ヲ以テ論ス。

第七十九條

凡、戰時ニ在リ、我カ陣營ニ来往シテ、常路ヨ由ラサル者ハ、平民ト雖モ、間諜ト同ク論ス。

第八十條

凡、軍人軍屬、戰時ニ在リ、定例ノ服裝ニ依ラスシテ、彼

此陣營ノ間ニ往来スル者、亦間諜ト同ク論ス。

第八十一條

第七十三條ヨリ、第七十七條ニ至リ、并ニ第七十九條

第八十條ノ犯罪、事若シ輕細ニ屬シ、未タ兵機ニ關ス

ルニ至ラス、犯人ヲ究覈シテ、誤失ノ實證アル者ハ、錯

事ノ律ニ依テ論ス。

第四篇 對捍徒黨律

第八十二條



凡、海陸軍ニ在テ、上下ノ分ヲ嚴ニシ、毫釐モ之ヲ侵サシメス。以テ通體ノ肅齊ヲ致スハ、兵制ノ命脉ニシテ、瞬時モ忽畧ス可カラサルノ典型タリ。是ヲ以テ、武弁ハ、貴賤ヲ論スルナク、上官ノ命ハ、直下ニ服従スヘキ身ナラス。同列ト雖モ、年月席次已カ上ニ位スル者ハ、上官ニ比シ、公役ニ於テ其使令スル所ハ、一體ニ從順シ、事ノ可否得失ヲ論セサルヲ法トス。唯事理實ニ不可ナル者アラハ、一次服行スルノ後、才カニ之ヲ申告

スルヲ許ス。若違フ者ハ、抗命對捍ノ律ニ依テ、重キニ從テ論ス。

第八十三條

凡、三人以上、相與シテ、上官ノ命ニ抗スルヲ、徒黨對捍ト云フ。軍法於テ、殊ニ嚴禁タリ即チ第二十八條徒黨ノ律ヲ以テ論ス。

第八十四條

其徒黨對捍ノ律ニ合スルモ、事タル細少ニシテ、黨亦



五人ニ上ラス。情實ヲ審檢シテ。頗ル事理アル者ハ一  
等ヲ宥メ。首ヲ徒ニ處シ。徒准シテ一等ヲ減ス。

第八十五條

凡、黨ヲ結ヒ、謀ル所アリ。或ハ誓盟ヲ立テ。或ハ時日ヲ  
期シ。姦宄ヲ行ヒ。變亂ヲ激スル者。黨姦ト云ヒ。黨亂ト  
云ス。凡、之ニ坐スル者。或ハ德通事ヲ醸シ。或ハ首唱事ヲ執  
ル。或ハ其事ニ服行ス。皆死ニ處シ。餘ハ徒以下。禁錮以  
上ヲ以テ論ス。

第八十六條

凡、將校前三條ノ罪ヲ犯スハ。重キニ從テ論ス。若シ將  
校黨中ニ在レハ。元謀ホウキニタラスト雖モ。首ト同ク論ス。

第八十七條

凡、將校徒黨アルニ遭ハ、方畧ヲ盡シテ。是ヲ拒ムヘ  
シ。若シ違フ者ハ。奪官ヨリ。退職ヲ以テ論ス。

第八十八條

凡、軍人軍屬。聚訟多人數クテ争フ事スルニ遭ハ、長上ノ官。諭シテ速ニ



解散シ、各其所ニ還ラシム、若シ猶從ハサル時ハ、其中  
數人ノ名ヲ擧ケテ、解散ヲ命スルヲ法トス、ノ名ニケルモ當該數名、  
猶應スルヲナキ時ハ、之ヲ黨首トシテ論ス。

第八十九條

既ニ解散ヲ命シタル後、猶命ニ服セサル時ハ、黨亂ト  
ナシテ之ヲ視、上官之ヲ鎮壓スル為メニ、酷烈ノ方畧  
ヲ取ルヲ許ス、若シ猶對捍シ、或ハ冥頑動カサル者ハ、  
ゴウニヤウ皆死ヲ以テ論ス。

第九十條

凡、將校密カニケシカケ唆教シ、或ハ與謀スル等、都テ聚訟ニ連  
累スル者ハ、死ヲ以テ論ス。

第九十一條

凡、謀叛黨亂等ノ事アルヲ知り、申告セサル者ハ、徒ヨ  
リ杖ヲ以テ論ス。

第九十二條

凡、軍人軍屬、黨姦若クハ黨亂ニ與スト雖モ、事未タ發



覺セサルニ。過ヲ悔ヒ、自首スル者ハ罪。答ニ止ル。脅從  
一時ノ許諾ニ出タル者。速ニ自首スレハ。其罪ヲ免ス。

第九十三條

其將校前二條ノ罪ヲ犯ス者ハ。奪官ヨリ。回籍ヲ以テ  
論ス。一時ノ許諾ニ出ルモ。降官ヨリ減セス。

第九十四條

凡。哨兵。哨船。擅マ、ニ守地ヲ離レ去ル者。事一體ニ涉  
レハ。徒黨對捍ト同ク論ス。然レトモ。其中將校若クハ

下士。之ヲ管轄スル者アレハ。黨姦ト同ク論シ。等級長  
官ニ次ク者四人ヲ。死ニ坐セシム。

第九十五條

凡。戰時疆場若クハ城ヲ圍ミ。若クハ圍ヲ受ケ。若クハ  
敵艦ト相逢ヒ。若クハ敵堡ヲ攻ムル等ノ處ニ在テ。長  
官ニ對捍シ。命ヲ受ケス。或ハ故ヲニ懈テ。服行セサル  
者ハ。即チ死ニ處ス。平時ハ徒ニ處ス。將校ハ重キニ從  
テ論ス。



第九十六條

其命スル所ノ事件、輕細ニ屬シ、捍拒亦一二言語上ニ在レハ、戰時モ徒ニ止ル、平時ハ懲罰ニ屬シ、重クトモ禁錮ヨリ上ラス。

第九十七條

凡、下士以下、上官ヲ罵詈シ、若クハアツコラ戲弄侮慢カコシムルスル者ハ、徒ヨリ杖ヲ以テ論ス。

第九十八條

其侮慢事為ニ涉リ、拘拉アツコラ毆撞ウツク若クハ兵器ヲ擬シ、癡傷ヲ致ス者ハ、死ヲ以テ論ス。

第九十九條

凡、將校、第九十七條ノ罪ヲ犯スハ、奪官、第九十八條ノ罪ヲ犯スハ、自裁ニ處ス。

第一百條

凡、上官ヲ罵詈拘拉スル罪ヲ犯ス、服後ノ間ニ在リ、ソコトノ當該ノ上官之ヲ訴へ、モシクテ供證明白、ミヤウコ誓言ニ依テ執照ス



レハ、即チ獄成ルニ同シトシ、他人ノ證ヲ待タス、本犯ヲ  
断スルコトヲ得ヘシ、但當談訴人他ノ情實アリテ、別由  
明白ナルハ、此限ニ非ラス。

第百一條

前條ノ供證、後來若シコソラヘテ装誣ニ出タルコト、敗露スレハ、當  
該ノ罪犯、既ニ決スルト、未夕決セサルコトヲ論セス、前  
時擬断スル律ニ、照依シテ、其上官ヲ論ス、但其誣證ノ  
事由、重犯ニ涉ル者ハ、重キニ從テ論ス、イハレシキニ

第百二條

凡、軍人軍屬、守衛ノ兵ヲ戲弄侮慢シ、若クハ罵詈オトカス威逼  
スル者ハ、杖ニ處ス、

第百三條

若、侮慢事為ニ涉リ、苛激セカクノ舉ニ及フ者、平戦ノ別ナク、  
皆死ニ處ス、

第百四條

其守衛ノ兵、前二條ノ事ニ由テ、拘斃ニ及ヒ、若クハ苛



激ノ舉ヲ遮護シテ傷死ニ至ル者供證明白誓言ニ依テ執照スレハ他人ノ證ヲ待タス罪ヲ免スルヲ得但他ノ情實アル者此限ニ在ラス。

第百五條

凡戦時若クハ平時ニ在リ命ヲ受テ差遣セララル者斥候間使ノ類ノ如キ其等級卑賤ト雖モ之ヲ欺誑ダシ挑撥ダシシ若クハ威逼脅喝シテ其含ム所ノ命探ル所ノ報ヲ聽ント欲スル者ハ第百二條及ヒ第百三條ノ罪犯

ト同ク論ス。

第百六條

凡獄吏笞卒拿捕笞杖等ノ事ニ服スルニ臨ミ之ニ對抗スル者杖ニ誅ル。

第五篇 奔敵律

第百七條

凡海陸軍人軍屬カケオチ逃亡シ敵ニ奔ル者或ハ其長官ノ命書ヲ帶スルトナク敵ノ方へ行ク者或ハ逃亡ヲ謀リ



事未成ラスト雖モ、證迹明白ナル者ハ、首従ヲ論セス、  
皆死ニ處ス。

第百八條

凡、軍人軍属、圍城守城ノ時、長官ノ命書ヲ帶セス、城堡  
内外へ出入スル者、奔敵ノ律ヲ以テ論ス。

第百九條

凡、兩軍相持スルノ際ニ於テハ、各部ノ司令官、預メ彼  
我ノ間ニ於テ、サカヒキ經線若クハ山ノカ界限ヲ定ムルヲ法トス、軍

人軍属、若シ長官ノ命書ヲ帶スルナク、之ヲ越ヘテ、前  
行スル者ハ、奔敵ノ律ヲ以テ論ス。

第百十條

凡、將校下士、ハシジ前哨守衛ノ地ニ在リ、若クハ海軍ニ於テ、  
救火ノ地ニ在リ、及ヒ哨兵守地ニ在テ、サキチシ直チニ逃亡ス  
ル者ハ、奔敵ノ律ヲ以テ論ス。

第百十一條

凡、守衛哨兵防火兵等、敵ト相持スル地ニ在テ、號令ヲ



守ラス、擅マ、ニ守地ヲ離ル、者、前條ノ律ニ准シテ、  
死ニ處ス。

第百十二條

其守衛哨兵防火兵等、若クハ睡眠シ、若クハ酩酊シテ、  
事ヲ省セサル者ハ、才カニ死ヲ宥メテ、徒ニ處ス。

第百十三條

凡、軍人軍属、他人ヲ誑誘シテ、敵ニ奔ラシメ、若クハ隱  
匿、若クハ送引オカリスル者ハ、本犯ト同ク論ス、平民之ヲ犯

ス者モ、之ニ准シテ論ス、

第百十四條

凡、軍人軍属、佗人敵ニ奔ルノ計アルヲ知り、若クハ、容  
隱、若クハ惠遺、或ハ故ラニ糾察拿捕ヲ懈リ、或ハ其命  
ヲ受テ辭スル者ハ、徒黨ニ准シ、從ト同ク論ス。

第百十五條

凡、軍人軍属、三人以上、敵ニ奔ラン、トテ謀リ、事未タ成  
ラスシテ、發覺スレハ、第八十五條、黨姦ノ律ト同ク論



ス。

第六篇 戦時逃亡律

第百十六條

凡、軍人戦時ニ在リテ、軍ヲ脱シ、或ハ軍艦兵船ヨリ脱シ、或ハ城堡陣營、敵ト相持スルノ處ヨリ脱シ、内地ヘ逃走スル者、將校ハ死ヲ以テ論シ、卒夫ハ徒ヲ以テ論ス。

第百十七條

其内地ヘ逃走スルモ、守衛若クハ他ノ要務ニ服シ、直ニ其疆場ヨリ逃亡スル者、第百十條第百十一條ノ律ニ諛ル。

第百十八條

凡、軍人内地ヘ逃亡スル者、依テ偷盜ヲ犯シ、或ハ小銃ヲ携ヘ去リ、或ハ隊馬ヲ偷ニ去リ、或ハ船隻ヲ奪ヒ去ル等ハ、死ヲ以テ論ス。但隨身ノ用具、銃槍若クハ刀劍ノ類ハ、此限ニ非ラス。



第百十九條

凡、戦時逃走スル者、事未夕舉行セサルニ發覺シ、證據明白ニシテ、只敵ニ奔ルノ證左ナキ時ハ、第百十六條ノ律ニ依テ論ス。

第百二十條

凡、軍人戦時陣營城堡若クハ艦内ニ在リ、點呼ニ會セサルノ後、二十四字内ニ来ラス、期ニ後テ自ラ歸リ、若クハ他所ニ潛匿シテ、發覺スル者ハ、戦時逃亡ノ律ヲ

以テ論ス。

第百二十一條

凡、野營、旅營、若クハ敵ト相持スルノ處ニ在テ、該部司令官ノ定タル營後ノ經線ヲ越ヘテ、内地ヘ向フ者ハ、戦時逃亡ヲ以テ論ス。

第百二十二條

凡、軍人戦地ニ在リ、免状ヲ帶シ、他方ニ到リ、期盡テ歸ラス、期後二日ヲ過ル者ハ、戦時逃亡ノ律ニ准シテ論



ス。但風ニ阻セラレ、病ヲ患ヘ、盜ヲ被ル等ノ故アリ、證  
憑ノ照勘スヘキアルハ、宥メテ治セス。

第百二十三條

凡、軍人軍屬、他人ヲ誑誘シテ、逃亡セシメ、或ハ逃亡ヲ  
容隱惠遺スル等ハ、第百十三條第百十四條ノ律ニ准  
ス。

第百二十四條

凡、三人以上、逃亡ヲ謀リ、發覺シテ、奔敵ノ證ナク、若ク

ハ既ニ逃亡シテ、内地ヘ奔ル者ハ、徒黨ノ律ヲ以テ論  
ス。

第七篇 平時逃亡律

第百二十五條

凡、海陸將校、平時ニ在リ、逃亡シテ、他事ナキ者ハ、奪官  
ニ處ス。

第百二十六條

其下士、平時逃亡、他事ナキ者ハ、黜等、卒夫ハ杖ニ處ス。



第百二十七條

凡、卒夫、逃亡セント欲シ、點呼ニ會セサル後、二十四字内ニ在テ、未夕一時行程ヲ出スシテ、阻攔セラレタル者ハ、懲罰ニ属ス、但一時行程ヲ逾ル者ハ、前條ノ律ニ依テ論ス、

第百二十八條

凡、下士卒夫、逃亡ノ後、能ク省悟シテ、二週内ニ歸投スル者ハ、懲罰ニ属ス、二週ヲ過ル者ハ、省悟ニ出ツト雖

トモ、第百二十六條ヲ以テ論ス、

第百二十九條

凡、下士卒夫、平時ニ在リ、逃亡二次ニ及フ者ハ、罪、徒一年ニ諛ル、猶省悟シテ、二週内ニ歸投スル者、下士ハ黜等、卒夫ハ杖ニ處ス、

第百三十條

凡、下士卒夫、平時逃亡、三次ニ及フ者ハ、徒三年ニ諛ル、歸投スト雖モ、律ノ如ク論ス、



第百三十一條

凡、下士卒夫、平時ニ在リ、其隨身欠クヘカラスル物ノ外、隊伍若クハ房舎ニ属スル官物ヲ偷ミ、逃亡スル者ハ、各放逐ニ處ス。

第百三十二條

該犯能ク省悟シ、二週内ニ歸投シ、贓物全キヲ得レハ、下士ハ黜等、卒夫ハ杖ニ處ス。

第百三十三條

前條ノ罪犯、歸投ノ後、再ヒ他事ナキ逃亡ヲ犯ス者、下士ハ徒二年、卒夫ハ徒一年ニ處ス。省悟歸投スルモ、律ノ如ク論ス。

第百三十四條

凡、下士卒夫、平時ニ在リ、小銃、拳銃、擔囊等ヲ以テ、逃亡スル者、徒二年ニ處ス。

第百三十五條

凡、騎兵、平時ニ在リ、其隊ノ馬匹、鞍被等ヲ以テ、逃亡ス



ル者、徒三年ニ處ス。

第百三十六條

凡、下士卒夫、タカシロウチ營舎艦房ニ在リテ、ホウバク同夥ノ被服財賄等ヲ竊盜シ、以テ逃亡スル者、徒二年ニ處ス。

第百三十七條

凡、他人ノ財賄ヲ借リ、ツカヒナクシテ消盡シテ、償フコト能ハス、因テ以テ逃亡スル者ハ、第百二十六條ノ律ニ該ル。若シ借ル所ノ物ヲ典賣シ、逃亡スル者ハ、前條ノ律ニ該ル。  
主テキリ合

第百三十八條

凡、平時ニ在リ、下士守衛若クハ哨兵ノ長官トシテ、逃亡スル者ハ、徒三年、下士卒夫平時守衛若クハ哨兵トシテ、逃亡スル者、下士ハ徒一年、卒夫ハ放逐ニ處ス。但兵器ヲ携へ去ル者ハ、徒二年ニ該ル。

第百三十九條

其逃亡ノ下士卒、装彈ノ銃ヲ帶スル者ハ、事情ヲ檢實シ、死ヲ以テ論スルコトアリ。



第四百十條

第三百三十四條ヨリ、前條ニ至ルノ罪犯、能ク省悟、帰投シテ、其贓物全キヲ得レハ、猶一等ヲ減スルヲ得ヘシ。

第四百十一條

凡、軍人逃亡シ、若クハ免状ヲ帶シ、他方ニ赴キ、或ハ姓名ヲ變更シ、或ハ装誣シ、他ノ軍艦、營團ニ轉入スル者、發覺スレハ、徒ニ處ス。

第四百十二條

凡、將校下士、逃亡ノ辨備ヲナシテ發覺シ、檢實シテ他犯ノ證左ナキ者ハ、第三百二十五條、第三百二十六條ノ律ヲ以テ論ス。

第四百十三條

凡、逃亡ノ證迹明白ナラスト、雖モ、長官ノ允許ニ由ルヲナク、擅マ、ニ營ヲ出テ、艦ヲ離レ、一時行程ヨリ、遠ク距ル者、其近所ニ在ルモ、點呼ニ會セサルノ後、四十八字ヲ過ル者ハ、逃亡ノ律ニ准シテ論ス。



第百四十四條

凡、軍人、免状ヲ帶シ、他方ニ赴キ、期盡テ八日ノ後、還ラサル者ハ、逃亡ノ律ニ准シテ論ス。但阻風病疾盜賊等ノ難ニ罹リ、證憑アル者ハ、宥メテ治セス。

第百四十五條

凡、下士卒夫、免状内、定期盡ルノ後、八日ニシテ、還ラサル者、能ク省悟シテ、三週内ニ歸投スル者ハ、懲罰ニ属ス。

第百四十六條

凡、軍人、免状内、期盡テ八日ノ後ニ還リ、人ノ為メニ逃亡トシテ、告訴セラル、者、徒ラニ阻風病疾盜賊等ノ故ヲ以テ、證左トナスヲ得ス。必ス地方官司ノ證憑アリテ、シテハ照勘供状、ヒラキテ實證明白ニシテ、才ガニ可ナリトス。

第百四十七條

凡、平時ニ在リ、他人ヲ誑誘シテ、逃亡セシメ、或ハ容隠惠遺シ、或ハ送引助成シ、或ハ糾察拿捕ヲ懈リ、或ハ其



時期地方ヲ知テ申告セサル等皆本犯ト同ク論ス。持  
校ハ重キニ從フ。

第百四十八條

凡、平時ニ在リ、三人以上、共ニ逃亡スル者ハ、徒黨ノ律  
ヲ以テ論ス。

第八篇 兇暴劫掠律

第百四十九條

凡、海陸軍人軍属、兇暴ニ因テ、平民婦女老幼ヲ劫虐シ、

致命ノ傷ヲ致ス者ハ、内地敵疆ニ在ルヲ論セス、皆死  
ニ處ス。

第百五十條

凡、賭博ト、鬪毆ノ輕キ者トハ懲罰ニ於テ論ス、其毆撞、  
拘執ニ因テ毀傷ヲ致ス者ハ、輕傷モ徒ヲ以テ論ス、其  
兵器ヲ用フルハ、死ヲ以テ論ス。

第百五十一條

凡、婦女ヲ強姦スル者ハ、死ニ處シ、人ノ強姦ヲ扶クル



者ハ、徒ニ處ス、其十四歳以下ノ女子ヲ姦スルハ、和ト雖モ、強ト同ク論ス、

第百五十二條

凡、將校、濫リニ既降ヲ殺シ、又降附ノ艦内ニ於テ、人ヲ殺ス者、罪各死ニ諛ル、但其降、形迹疑フヘク、拘縛ニ暇アラサルハ、此限ニ在ラス、

第百五十三條

凡、軍入軍属、長官ノ命書ヲ帶スルナク、火藥器械等、

府庫、野外ノ屋舎、住民ノ家室、山林材木、若クハ田畦、菓穀等、總テ公私ノ所有ヲ、放火焚燬スル者、内地敵疆ニ在ルヲ論セス、皆死ヲ以テ論ス、

第百五十四條

凡、軍人軍属、長官ノ命書ヲ帶スルナク、兵威ヲ以テ、平民ヲ劫虐シ、財貨ヲ掠奪スル者、内地敵疆ヲ論セス、皆死ニ處ス、但事三人以上ニ涉レハ、黨姦ト同ク論ス、

第百五十五條



其掠奪スル<sub>レ</sub>ナキモ、兵威ヲ恃テ劫暴シ、家屋ヲ毀損シ、畜産ヲ殺傷シ、財物ヲ毀壞スル者ハ、徒ニ處ス。但三人以上ハ、徒黨ヲ以テ論ス。

第百五十六條

凡、軍人軍屬若クハ行軍ニ在リ、若クハ野營屯營ノ近傍ニ在テ、或ハ身ヲ潜シ、或ハ身ヲ潜スルナク、或ハ夜間ニ在リ、或ハ晝日ニ在リ、或ハ一人、或ハ二人、何等ノ地方ニ在ルヲ論セス、人家牆内若クハ門前ニ於テ、家

ヤウチカキノ字

畜豚豕雞鴨ノ類、魚鼈ノ類、穀肉菓菜ノ類、總テ飲食ノ資ヲ盜竊スル者、將校ハ奪官、下士ハ黜等、卒夫ハ笞ニ處ス。但三人以上ハ、第八十四條ノ律、六人以上ハ、徒黨ノ律ヲ以テ論ス。

第百五十七條

其犯罪、或ハ人ヲ劫奪シ、或ハ人ヲ欺騙シ、或ハ牆壁ヲ毀壞シ、或ハ鎖鑰ヲ振開スル等ノ事為ヲ兼ル者、第百五十五條ノ律ト同ク論ス。



第百五十八條

第百五十六條ト一類ノ罪犯タリト雖モ、牛馬ヲ盜ム者、或ハ厩舎ニ於テシ、或ハ郊野ニ於テスルモ、皆徒ニ處ス。若シ劫欺ノ所行ヲ兼ル者ハ、死ニ處ス。

第百五十九條

凡、兇暴劫掠ノ罪犯、六人以上ノ衆ニ及ヒ、兵器ヲ携ヘ、恐嚇威逼スル者ハ、黨姦ノ律ヲ以テ論ス。

第百六十條

凡、兇暴劫掠ノ所行ニ類スル者モ、輕犯ニシテ篇内各條ニ合セサル時ハ、懲罰ニ属シテ論ス。但三週ノ懲罰ヲ犯ス三次ニ及フ者、禁錮ニ處シ、輕犯ト雖モ犯ス毎ニ一等ヲ加ス。

第百六十一條

凡、將校下士、部下ノ卒夫、兇暴劫掠ノ罪ヲ犯サントスルヲ知リ、若クハ之ヲ見ハ、カヲ盡シテ、之ヲ遏メ、已ムヲ得サル時ハ、酷烈ノ方畧ヲ以テ、之ヲ拒クテ法トス。



若シ違フ者ハ、將校ハ回籍、下士ハ黜等ヲ以テ論ス。

第百六十二條

凡、將校部下ノ卒夫、若クハ軍属諸人ト共ニ、兇暴劫掠ノ罪ヲ犯ス者ハ、奪官ヲ以テ論ス。若シ其部下一隊之ヲ犯ス時ハ、已與ラサルモ、回籍ヲ以テ論ス。

第百六十三條

凡、軍人軍属、掠奪ノ物品タルヲ知リ、若クハ之ヲ疑ヒテ、其分賦ヲ受ケ、若クハ是ヲ買フ者、本犯ト同ク論ス。

第百六十四條

凡、劫掠ニ類スト雖モ、貨幣財賄ヲ盗ミタルハ、盜賊ノ律ニ依テ論ス。

第百六十五條

此卷ニ擧タル諸條、興軍ノ日、戦地ニ臨ム時ニ在テハ、將帥軍令ヲ嚴ニシ、整肅ヲ要スル為ニ、時宜ニ從テ、改易宣布スヘシ。



第九篇 盜賊律

第百六十六條

凡守衛ノ兵若クハ護監ノ兵トシテ竊盜シ又貨物ノ  
モトノバシ 監督主守トシテ竊盜スル者賊五十兩ニ滿サルハ徒  
モトノバシ 五十兩ニ滿ルハ死賊奪若クハ三人以上ハ賊ノ多少  
ヲ計ヘス皆死ニ處ス。

第百六十七條

凡會計ノ官吏倉庫ノ主司糧餉草秣等ノ支給ヲ司ル  
モトノバシ

者官物ヲ竊盜スルハ前條ノ律ヲ以テ論ス。

第百六十八條

凡軍人軍属ハタケノヤ旅次ニ在リ公事ニ因テ宿留シ依テ以テ竊  
盜スル者賊二十兩ニ滿サルハ放逐二十兩ニ滿ル以上ハ  
徒一百兩以上ハ死賊奪若ハ三人以上ハ皆死ニ處ス。

第百六十九條

凡軍人軍属或ハ武庫或ハ藥庫或ハ護漕船其他彈藥  
シヤクダ 器具ヲ藏スル處ニ就テ竊盜ヲナス者其監守タルニ



非レハ、贓ヲ計ヘ、二十兩ニ滿サル以下ハ、杖ヨリ禁錮  
ヲ以テ論シ、二十兩以上ハ、徒、一百兩ハ死、三人以上ハ、  
徒黨ト同ク論ス。

第百七十條

凡、府庫、其他、錢貨運輸等ノ用ニ供スルハ、役夫傭作、其名  
目何タルヲ論セス、官物ヲ消費シ、若クハ偷ツカヒ虧ラススル者  
ハ、前條ノ律ニ准シテ論ス。

第百七十一條

凡、軍人軍屬、屯營野營等ノ處ニ在リ、官屬ノ器具ヲ盜  
ム者、徒ヨリ放逐ヲ以テ論ス。

第百七十二條

凡、騎兵官馬鞍被等ヲ典シ、若クハ賣ル者ハ、徒、下士卒  
夫、隨身ノ器具、官ニ属スル者ヲ典シ、若クハ賣ル者ハ、  
放逐ヨリ、杖ヲ以テ論シ、其贓ヲ計ヘス

第百七十三條

凡、敵艦ヲ奪ヒ、若クハ陸軍、戦利ヲ輸スル等ノ時ニ方



リ、其箱櫃ヲ毀開シ、貨物ヲ盗ム者、死ニ處ス。但箱櫃ヲ  
毀開セス、鎖封ヲ<sup>モキス</sup>扭断セス、員數ヲ虧欠セザル、偷盜ハ、  
杖以下ヲ以テ論ス。<sup>コラスミ</sup>

第百七十四條

凡、軍人陣営内ニ在リ、上官若クハ同夥ノ貨賄ヲ盗ム  
者、贓一両ニ滿サル以下ハ、懲罰ニ属ス。二十両ニ滿サ  
ル以下ハ、杖ヨリ禁錮ヲ以テ論シ、二十両ニ滿ル以上  
ハ、徒ニ處シ、一百両ニ滿ルハ、死ニ處ス。二人以上相與

スル者ハ、輕贓モ徒ニ處ス。但一百兩ニ至ラサレハ、死  
ニ處スルヲナシ。

第百七十五條

凡、將校第百六十六條ヨリ、前條ニ至ルノ律ヲ犯ス者  
ハ、輕犯モ、回籍ヨリ下ルヲナク、下士ハ、黜等ヨリ下ル  
ヲナシ。

第百七十六條

偷盜贓一両ニ滿サル者ハ、懲罰ノ典ニ於テ論ス。但犯



ス三次ニ至ル者ハ禁錮犯ス毎ニ一等ヲ加フ。

第十篇 錯事律

第百七十七條

凡將校一方ノ任ヲ受ケ事變ニ因テ號令ヲ變革シ部署ヲ更易スレハ速カニ長官ヘ申告スルヲ法トス違フ者ハ回籍ヨリ退職ヲ以テ論ス因テ以テ事ヲ誤ル者ハ死ヲ以テ論ス。

第百七十八條

凡將校一部ノ司令ニ任シ擅マニ人ヲ取テ部伍ニ充ル者究覈シテ他故ナケレハ回籍ヲ以テ論ス。

第百七十九條

凡海軍ノ將校本邦或ハ同盟諸國ノ臣民ニ属セル商船海賊ノ難ニ遭フヲ見救フヘクシテ救ハザル者回籍ヨリ退職ヲ以テ論ス。

第百八十條

凡海軍ノ將校商船風浪ノ險ニ罹ルニ逢ヒ救フヘク



シテ。救ハサル者ハ。退職ヲ以テ論ス。

第百八十一條

凡、船艦、外國ノ港ニ進ム時、其國ノ禁貨ヲ陸ニ輸スル者ハ。平戦若クハ局外ヲ稱スルノ時タルニ拘ラス。販賣ノ證迹アル時ハ。將校ハ死ヨリ。奪官ヲ以テ論シ。下士以下ハ。徒ニ處ス。若、事其禁貨タルヲ知ラサルニ由リ。販賣ノ意アルニ非サル者ハ。將校ハ閉門。下士以下ハ。禁錮ヲ以テ論ス。

第百八十二條

凡、船艦、幸差發歸程ノ時ニ當リ。艦内へアキナヒニモツ商貨ヲ積ミ。或ハ人ニ許シテ。之ヲ積シメ。或ハ自己ノ利ヲ謀ル。或ハ水脚銀ヲ利シ。或ハギ贓賄ヲ貪リ。或ハ私恩ヲ販ク者。貨物ヲ究覈シテ。證迹アル時ハ。將校ハ奪官ヨリ。回籍ヲ以テ論シ。下士以下ハ放逐ニ處ス。贓ハ官ニ没入ス。

第百八十三條

凡、將校、一方ノ任ヲ受ケ。敗走ノ敵ヲ逐サル者。奪官ヨ



リ田籍ヲ以テ論ス。但他ノ計畧アリ、若クハ預メ其害ヲ觀、尾撃ニ及ハスシテ、オヒウチ分疏理證アル者ハ、此限ニ在ラス。モウシマケ

第百八十四條

凡、軍艦ノ將帥、外國又他ノ洋中ニ在リ、既ニ敵船ヲ拿獲スルノ後、彼ニ贖還ヲ許ス者ハ、カヒモトス奪官ヨリ田籍ヲ以テ論ス。但、事由ヲ分疏シテ理證アル者、此限ニ在ラス。コトガラ

第百八十五條

凡、將校、守城、圍城、守衛等ノ處ニ於テ、錯テ命令ヲ傳ヘ、因テ以テ事ヲ誤リ者、死ヨリ田籍ヲ以テ論ス。但、事ニ害ナク、或ハ令ヲ出スノ後、先覺テ、速ニ之ヲ改ムル者ハ、退職ヨリ閉門ヲ以テ論ス。

第百八十六條

凡、守衛、交代等ノ時ニ當リ、ニキヤウ事例ノ傳フヘキヲ傳ヘス、或ハ敵情ノ告クヘキヲ告ケス、以テ後任ヲ誤ル者、ヲキノモヤウ事忌嫉ニ出ルノ證迹アル時ハ、死ヨリ奪官ヲ以テ論シ、



怠慢ニ由ル者ハ、奪官ヨリ回籍ヲ以テ論ス、下士以下  
モ之ニ准ス。

第百八十七條

凡、水路司、懈怠ニ因テ、船路ヲ誤ラシメ、礁ニ坐シ、沙ニ  
膠セシムル者ハ、回籍ヨリ退職ヲ以テ論ス。

第百八十八條

凡、守兵トシテ、捕虜幽囚ヲ脱スル者、將校ハ奪官以下  
下士以下ハ、徒以下、各本犯輕重ニ准シテ論ス。

第百八十九條

凡、敗軍ニ方リ、懈怠ニ因テ、旗手、旗幟ヲ奪ハレ、主司ノ  
人、號符秘記ヲ失ヒ、倉卒ノ際、火門ニ釘スルナク、文簿  
ヲ焼破スルナク、敵前ニ兵器ヲ抛棄シ、彈藥馬匹ヲ付  
與スル等、皆徒ヨリ、放逐ヲ以テ論ス。

第百九十條

凡、糧餉草秣火藥等ヲ、支給配賦スルノ任ニ當リ、遲滯  
令ニ合ハス、期ヲ愆リテ、事ヲ敗ルヲ致ス者、死ヨリ徒ヲ



以テ論ス。檢問シテ、失錯長官ニ由レハ、長官ヲ罪ス。

第百九十一條

凡、金穀度支ノ小吏支給スルニ方リ、故ラニ緩急ヲナ

シ。以テ威柄ヲ弄シ、或ハ已カ舊交ニ私シテ、其期ヲ速

カニシ、以テ恩ヲ沽ル等ハ、放逐ヨリ杖ヲ以テ論ス。其

金穀ヲ克欠スル者ハ、徒ニ處ス。

第百九十二條

凡、辨糧官、炊夫、庖人若クハ穀種若クハ麵粉若クハ蔬

菜若クハ酢醬若クハ肉羹或ハ草料等ヲ貯藏スル下、

法ヲ失シ、懈怠ニ因テ、腐敗ヲ致ス者重キハ禁錮輕キ

ハ懲罰ニ属ス。但腐敗ヲ知テ、之ヲ用ヒ、因テ以テ人ヲ

誤ル者ハ、死ニ處ス。

第百九十三條

凡、主司ニ非スシテ、官府ノ書牘ヲ披析シ、又長官ノ命

ナク、已カ管スル所ニ非ラスシテ、佗ニ送付スル者平

戦ノ時ヲ論セス。徒ヨリ杖ヲ以テ論ス。



第十一篇

詐偽律

第百九十四條

凡軍人軍屬官命ヲ矯メ若クハ詐テ官ト稱スル者其規謀スル所ノ輕重ニ從テ將校ハ回籍以上下士ハ黜等以上卒夫ハ笞以上ヲ以テ論ス

第百九十五條

凡下士卒夫佗人ノ免狀ヲ借リ若クハ之ヲ摹造シ或ハ佗ノ狀中ニ己カ姓名ヲ書シ或ハ己カ狀中ニ佗ノ

姓名ヲ書シメ或ハ時限ヲ延フルノ類總テ證紙印章ヲ贋造スル者下士ハ放逐ヨリ黜等ヲ以テ論シ卒夫ハ杖ヨリ禁錮ヲ以テ論ス

第百九十六條

凡軍人軍屬金穀度支ノ時分賦スヘキ人員何等ノ級タルヲ論セス其多寡ヲ知悉シテ現計ヨリ多久開具請求スル者將校ハ奪官下士以下放逐ヲ以テ論ス

第百九十七條



凡軍人軍屬、日給額金草糧等ヲ請フ時、定規ヲ越エテ、  
故意增加開具スル者、將校ハ回籍、下士以下ハ、笞ヨリ  
禁錮ヲ以テ論ス。

第百九十八條

凡軍人前二條ノ罪ヲ犯シタルヲ見陽ニ知ラサルヲ  
ナシテ、之ヲ釐正セサル者、將校ハ退職、下士以下ハ、笞  
ヨリ禁錮ヲ以テ論ス。

第百九十九條

第百九十六條第百九十七條ノ罪犯ノ為メニ、故ラニ  
之ヲ隱蔽シ、或ハ謀ニ與ル者ハ、本犯ト同ク論ス。

第二百條

凡軍人會計經理ノ官トシテ、或ハ各地ニ割駐シ、或ハ  
命ヲ含テ、一時差發セラレ、若クハ錢貨ノ事ヲ管司シ、  
書類ヲ贗造シ、規求スル所アル者、將校ハ奪官、下士以  
下ハ徒若職アレハ之ヲ計へ、五十兩ニ滿ルハ、死ニ處  
ス。



第二百一條

凡、辨糧官、或ハ水夫等、穀粉薪炭器具等ヲ私ニ鬻テ已カ利ヲ規スル者ハ、徒ニ處ス。

第二百二條

凡、辨糧官、炊夫庖人等、食料ニ混和スルニ、格外ノ物品ヲ以テシ、若クハ經理官ヨリ、支給セル穀種ニ換フルニ、他ノ下等品ヲ以テスル等ハ、皆徒ニ處ス。若、對換若、混合マゼルスル物品、滋養ノ害ヲナスニ足ル者ハ、死ニ處ス。

第二百三條

凡、辨糧官、庖人肉ノ分賦ヲ司ル者、例沽賣ヲ禁スルノ肉タルヲ知テ、之ヲ配賦シ、若、ハ家畜牛羊、傳染病若、ハ他ノ病ニテ、死シタルヲ知り、其肉ヲ配賦スル者ハ、死ニ處ス。

第二百四條

凡、辨糧官、炊夫、日給額糧ノ量ヲ減縮シ、若クハ草秣ノ給支ヲ司リ、其額料ヲ耗カスリ克スル等、各徒ヲ以テ論ス。



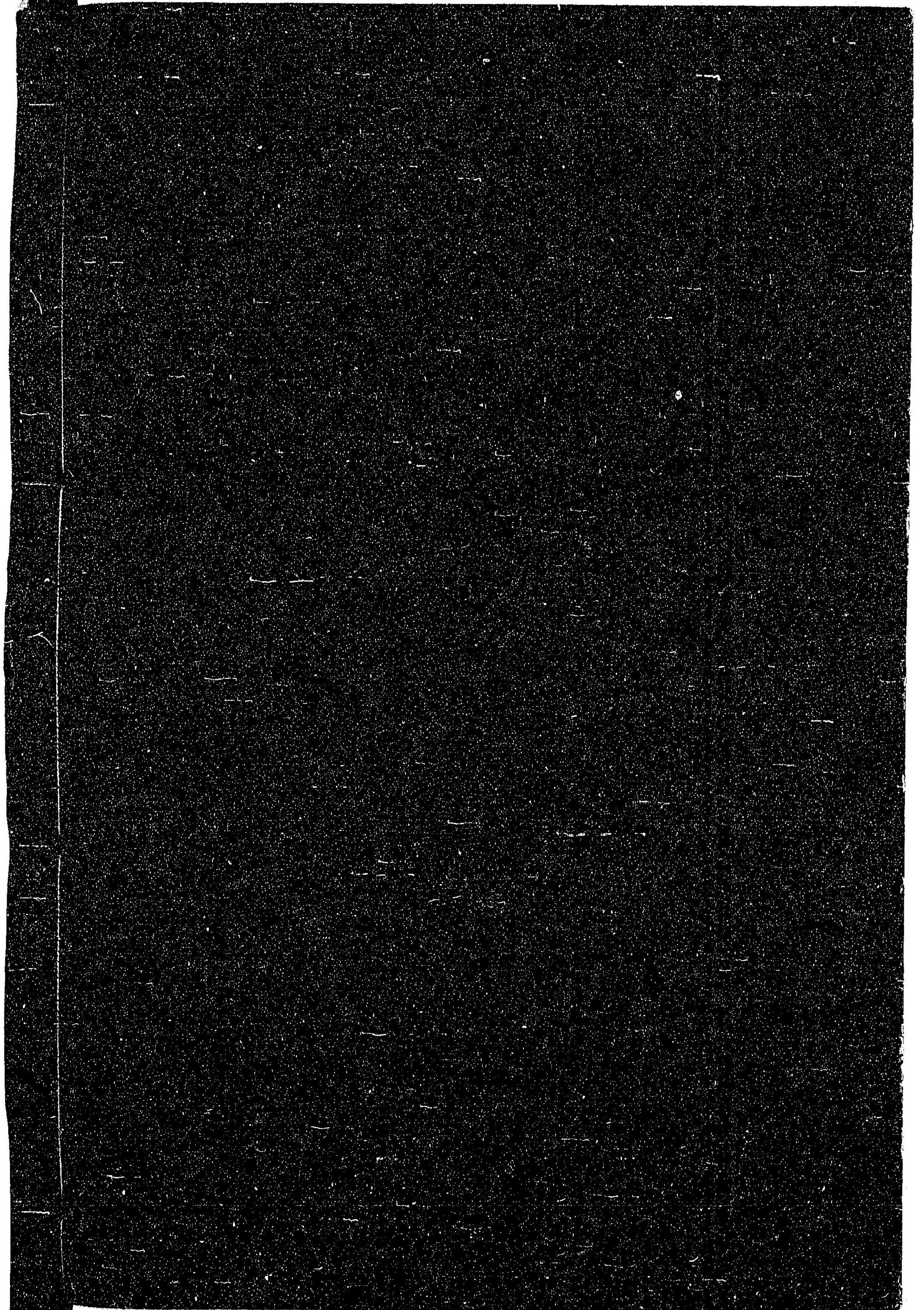
0802  
100

766



兵音書







特70  
483

036314-000-5

特70-483

海陸軍刑律

兵部省

M4

BBQ-0015

